



平成20年2月19日

各 位

神奈川県横浜市港北区新横浜二丁目5番14号
株式会社メディネット
代表取締役 CEO 木村佳司
(コード番号:2370 東証マザーズ)
問い合わせ先 経営企画部長 鈴木邦彦
電話番号 045(478)0041(代表)

メディネット、神戸大学による新たな免疫細胞療法の実用化に向けた研究を技術支援

株式会社メディネットは、国立大学法人 神戸大学(神戸市灘区、学長:野上 智行)が実施する樹状細胞ⁱを用いた新たな免疫細胞療法の実用化に向けた研究に対して、技術支援することとなりましたのでお知らせいたします。

神戸大学大学院 医学系研究科 外科学講座(食道胃腸外科学分野)では、消化管疾患に対する外科治療、特にがんに対する内視鏡外科手術、機能温存手術等を積極的に導入するとともに、がんの遺伝子治療、免疫療法等に関しても研究開発が行なわれています。

今般、同講座において、がんに対する新たな免疫療法を開発することを目的として、がん性胸膜炎または腹膜炎の患者を対象に、患者本人及び家族(2 親等内血縁者)の樹状細胞を用いて腫瘍特異的細胞傷害性 T リンパ球(CTL)ⁱⁱ の誘導能について比較検討する、「癌性胸・腹膜炎に対するアロ樹状細胞ⁱⁱⁱを用いた細胞傷害性 T リンパ球誘導のための in vitro スクリーニング試験に関する研究」が実施されます。

本研究は、神戸大学で実施されたマウス実験で、同系マウスの樹状細胞よりも他系(アロ)マウスの樹状細胞を用いた方がより高い CTL 誘導能が得られることが確認されたのを受け、ヒト樹状細胞において同様の結果が得られるかを、in vitro 試験にて確認するものです。尚、本研究にてマウス実験と同様に高い CTL 誘導が確認された場合には、この樹状細胞を用いた免疫細胞療法に係る臨床試験の実施も検討されています。

メディネットは、1999 年に免疫細胞療法総合支援サービス^{iv}を事業化し、これまでに約 55,000 件の免疫細胞療法による治療に、独自の細胞加工技術等を提供してまいりました。

今般の技術支援は、メディネットがこれまで培ってきた細胞加工技術ならびに品質管理ノウハウ等が評価され、神戸大学で行なわれる新たな免疫細胞療法の実用化に向けた研究において、免疫細胞の加工を技術面から技術支援、アドバイスするに至ったものと考えております。

本研究を通じてアロ樹状細胞を用いた免疫細胞療法の安全性及び有用性が確認されれば、がんに対する新たな治療法開発の可能性が示されると同時に、免疫細胞療法の普及が促進されるものと期待されます。

尚、本件の業績に与える影響は軽微であります。

以 上

本件に関するお問い合わせ:

株式会社メディネット 広報グループ
神奈川県横浜市港北区新横浜 2-5-14
045-478-0041(代表)

i 樹状細胞

抗原提示細胞として機能する免疫細胞の一種である。皮膚組織をはじめとして、鼻腔や肺、胃、腸管、末梢血中に存在し、その名のとおり周囲に突起を伸ばした形態をしている。

ii 腫瘍特異的細胞傷害性 Tリンパ球(CTL)

Tリンパ球の一種で宿主にとって異物になる細胞(移植細胞・ウイルス感染細胞・癌細胞など)を認識して殺傷する。

iii アロ樹状細胞

他人の樹状細胞。本研究では、2親等内の血縁者に限定している。

iv 免疫細胞療法総合支援サービス

免疫細胞療法を安全かつ効率的に実施するために必要な技術・ノウハウ、施設・設備、資材、専門技術者、情報システム等を、医療機関に対して包括的に提供するサービス。